

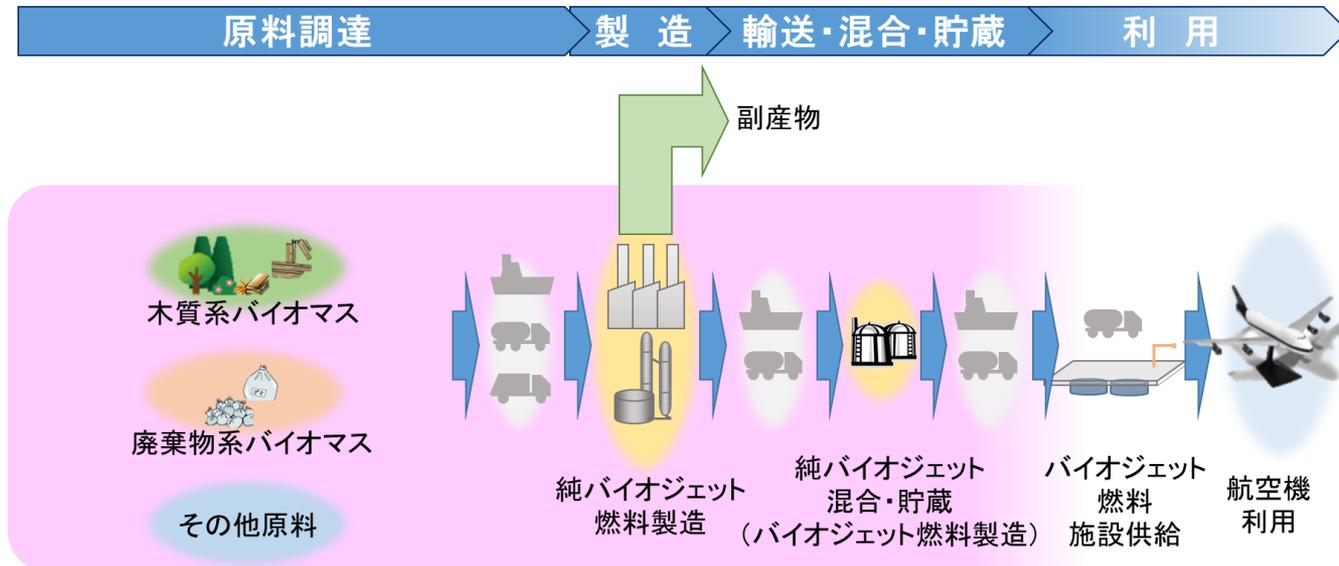
# [1]実証を通じたサプライチェーンモデルの構築

## 目的

- ✓ バイオジェット燃料のサプライチェーンを早期に確立する。

## 実施する内容

- ✓ 2030年頃までに一貫製造技術の確立、及び純バイオジェット燃料の規格（ASTM D7566）の認証取得が見込めるものであって、既存のジェット燃料のライフサイクルでの温室効果ガス排出量と比較して、温室効果ガス排出削減が見込まれ、且つ、想定する将来の製造規模を技術的に実現し得る純バイオジェット燃料製造技術を軸に、サプライチェーンの構築に必要な事業を行う。
- ✓ 対象とする純バイオジェット燃料製造技術は、現行事業（ガス化・FT合成技術、微細藻類技術）に加え、Alcohol to JET(ATJ)等も想定するが、その他の技術であって、社会実装、持続可能性という観点から同等もしくは同等以上の技術レベルであると判断される場合は、対象技術から排除しないものとする。



# [ 2 ] 微細藻類基盤技術開発

## 目的

- ✓ バイオジェット燃料の事業化に向け、バイオジェット燃料の原料であり、カーボンリサイクル技術の一つである微細藻類の培養技術を確立する。

## 実施する内容

### [2-1] 微細藻類基盤技術実証

- ✓ 微細藻類に係る安定大量培養技術を確立すべく、実用化を行う際の1ユニット単位となる規模の実証事業を行う。

### [2-2] 微細藻類研究拠点における基盤技術開発

- ✓ 広島県大崎上島において、様々な条件下での藻類種ごとの実証データ取得が可能なテストベッドを含む研究拠点を整備し、事業化にあたっての課題の解決や培養工程でのCO2利用効率を向上させるための手法の検討等を行う。
- ✓ なお、当該基盤技術開発を実施する者は、施設設計計画、立ち上げ、運営、管理を遂行する能力を有する事業者等を対象とする。

